

斑点米カメムシ類情報第1号

令和2年7月31日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**イネカメムシ、ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシが多発しています
除草を徹底し、出穂前後には薬剤防除を実施しましょう**

1 発生状況

7月下旬に県内104ほ場で行った本田におけるすくい取り調査において、1ほ場あたりのイネカメムシの捕獲数は0.51頭（平成0.03頭、前年0.08頭）、クモヘリカメムシの捕獲数は0.35頭（平成0.17頭、前年0.30頭）と共に過去10年で最も多く、ミナミアオカメムシの捕獲数は0.12頭（平成0.05頭、前年0.03頭）と過去10年で3番目に多い状況です。さらに、イネカメムシが多発生しているほ場が県内各地で確認されているため、注意が必要です。

2 イネカメムシについて（図1）

イネカメムシは、玄米基部を吸汁し、登熟初期から籾を集中的に加害します。登熟初期に加害された籾は不稔となり、収量減に繋がるため、注意が必要です。

3 ミナミアオカメムシについて（図2）

登熟初期から収穫期まで全期間の籾を加害し、斑点米を産出します。ほかの斑点米カメムシと比較して斑点米産出能力が高いため、少数でも被害が大きくなります。

また、多食性のカメムシであり、イネ科をはじめ、32科150種以上の植物を加害します。そのため、周辺でダイズやムギ類等の農作物が栽培されている場合、継続的な発生が懸念されます。

4 クモヘリカメムシについて（図3）

中山間地の水田に多く、出穂後にメヒシバ、ヒエ類、エノコログサ等から水田に飛来します。登熟初期の加害では、玄米が変形、変色することがあります。

5 防除対策

斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔などに生えるイネ科雑草の子実を餌に増殖するので、出穂2～3週間前までに除草を徹底しましょう。また、水田内で穂をつけたヒエ類なども発生を助長するので除去しましょう。

畦畔や水田内をよく観察し、斑点米カメムシ類の発生が多い時は出穂前後に薬剤防除を実施し、その後も発生が多い場合は出穂7～10日後に再度防除しましょう。特に近隣ほ場で斑点米カメムシ類が発生している場合、出穂後に本田に移動するおそれがありますので、近隣の発生状況に注意しましょう。防除薬剤については、7月16日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。



図1 イネカメムシ



図2 ミナミアオカメムシ



図3 クモヘリカメムシ